

目的 身体発育とこれを制約する各要因との関係を独立に論じた業績は数多い。筆者らもこれまで栄養摂取量ないし生活活動との関連をそれぞれ独立と仮定し、その間の関係を言及してきた。しかし、身体発育は1要因によつてのみ結果されるものではなく、あらゆる生活の集積結果によるものと考えるのが妥当であろう。この場合各要因はあるときには独立に、あるいは要因相互に交絡し合つて身体発育に影響するものと思ふされる。したがつて本研究では身体発育要因の総合的関連性を検討する目的で、まず要因の選定を試み、ついでその選定要因のうちいかなる要因がどの程度身体発育に関係したかを関与の程度をもつて明らかにする。また選定されたすべての要因と発育との MULTIPLE CORRELATION COEFFICIENT を評価することによつて、身体発育をどの程度推定できるかを考察する。併せて STRUCTURE VECTOR および WEIGHT VECTOR を求めて検討する。

方法 幼児の身体発育をここでは身長、体重、胸囲、座高をもつて評価し、同時にこれらの制約要因と考えられる変数37項目を測定調査した。制約要因はそのすべてを測定調査することは困難である。そこで従来より採用されている項目を参考にして幼児の生育過程を考慮しかつ測定可能な変数に限定せざるを得なかつた。このようにして選定された14変数をもとに CORRELATION MATRIX を作成し、評価の資料とした。

結果 発育全体に関与する主たる条件変数は、給食の摂取程度、ついで生下時体重、月令、母の体重の順であつた。そしてこれら4変数は発育全体のほぼ68%を説明する変数と推定された。